平成２８年度第２回社会教育委員の会議

平成２８年５月２０日（金）

午 前 ９ 時 ３ ０ 分 開 会

<table>
<tr><td>開催日時</td><td>平成２８年５月２０日</td><td>開会　９時３０分
閉会１０時４０分</td><td></td></tr>
<tr><td>場　　所</td><td colspan="3">小金井市役所第二庁舎　８０１会議室</td></tr>
<tr><td>出席委員</td><td>議　　長　　原嶋　和男
副　議　長　　柴田彩千子
委　　員　　古家　義伸
委　　員　　北村　景子</td><td colspan="2">委　　員　　石田　静子
委　　員　　長坂　　寛
委　　員　　原田　隆司</td></tr>
<tr><td>説明のため出席した者の職氏　　名</td><td>生涯学習課長　　石原　弘一</td><td colspan="2">図書館長　　菊池　幸子</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td colspan="3">生涯学習係長　　小堀久美子
生涯学習係主事　小佐野七香</td></tr>
<tr><td>傍聴者人　数</td><td>０名</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

日程	議　　題	
第１	協　議　事　項	（１）　三者懇談会の開催について （２）　平成２８年度視察研修について （３）　今後の社会教育委員の会議における協議内容について （４）　社会教育関係団体への補助金交付について （５）　その他
第２	報　告　事　項	（１）　図書館協議会会員の変更について （２）　小金井チャレンジデー２０１６について （３）　その他

原嶋議長　　皆さん、おはようございます。では、第２回の社会教育員の会議を始めさせてください。

その前に、城委員、あと西田生涯学習部長さん、前島公民館長さんがきょうはお休みです。なお、小山田さんにつきましては、おくれていらっしゃるということです。きょうは佐野さんも２０分おくれます。

では、最初によろしいですか。

小堀生涯学習係長　まず資料説明の前に、本日、東京都市町村社会教育委員連絡協議会の表彰規定に基づき表彰された方が、前期の委員の方で、中村さん、本多さん、樹さん３名の方いらっしゃって、ちょっとご都合が悪く、お２人は欠席となりますが、樹さんは本日来てくださいましたので、感謝状の伝達を会議の冒頭にさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

原嶋議長　　きょうは朝早くからありがとうございます。代表して感謝状を贈らせてください。

感謝状。樹　一美様。あなたは多年にわたり、社会教育委員として社会教育環境の充実・発展に尽くされました。よって、その功績をたたえ、深く感謝の意を表します。平成２８年４月１６日　東京都市町村社会教育委員連絡協議会会長　須永功。代読です。

長い間ありがとうございました。（拍手）

樹前委員　　第３次生涯学習計画にかかわらせていただいたことが、社会教育委員６年間やってきた総仕上げとさせていただけたので、本当にうれしかったなと思っております。

社会教育委員の和気あいあいした、仲のいい審議会が本当に恋しいなと思っています。本当に６年間お世話になりまして、ありがとうございました。（拍手）

原嶋議長　　では、始めさせてください。

まず、レジュメの確認でしょうか。お願いいたします。

小堀生涯学習係長　では、本日の資料の確認をさせていただきます。まず、本日の次第、その次に資料１、社会教育委員の会議のまとめが書かれています。次に資料２、平成２８年度三者懇談会グループ分け（案）、資料３、明日の小金井教育プラン抜

粋、Ａ４の裏表になっております。資料４、「コミュニティ・スクールって何？！」、こちらは６枚つづりの冊子になっております。資料５、「地域教育ネットワーク構築のためのコミュニティ・スクールの在り方について」【意見書】、こちらもホチキスどめになっていると思います。資料６、平成２８年度社会教育関係団体補助金交付申請一覧。あと、委員の方だけなんですけれども、「社教連」組織存続のための緊急提案（再提案）についてと、あと月刊公民館が配付されております。

資料は以上となります。

原嶋議長　　ありがとうございました。よろしいですか。

それでは、まだお集まりでない方いらっしゃいますけれども、進めさせてください。議題に入ります。

三者懇談会の開催について、あるいは（２）平成２８年度視察研修、（３）今後の社会教育委員、これは実は前回のこの会議でやっておりまして、どちらかといったら確認と変更の点だけをしていきたいと思っています。会議の重みというのは簡単に変えちゃうとまずいなというのはありますものですから、よろしくお願いいたします。

まず、私のほうから勝手にどんどん進めさせてください。次の社会教育委員の会議という資料１をごらんください。今お話ししました懇談会、これは懇談会ですので、研究会とか会議というか、眉間にしわを寄せるような会議ではない。このいきさつというのは、まずお互い知り合って、三者、図書館さんと公民館さん、そして私ども、そして今度１１月ごろにもう一度、今度は講義的なものがあるということなので、まずはお互いが知ろうというきっかけづくりの中でこういったテーマを選ばさせていただきました。

「地域活動の活性化の取り組みについて、子育て～働き盛り・シニア層を呼び込むために」、これは例えばグループの仲で子育ての方が多ければ話題になるでしょうし、少ないかもしれないけれども、働き盛り、あるいはシニア層、そういったことを話題にして、場合によっては３つでもいいと思いますけれども、そんなことで懇談ということで進めていただければと思っています。挨拶は私がやります。挨拶といっても大したことないです。柴田さんのほうからは提言の理由ということで、提言というのは大きいかもしれませんね。事例の発表みたいなやつですね。お願いします。

あとはグループに分かれまして、グループにつきましては後ほどごらんいただくことになると思います。最初に、各グループで自己紹介、それで進行担当、報告者を決めて話し合いに進む。これは大体のパターンなのかもしれません。ご経験が多いと思います。去年も私、こういう会に出席しまして、自己紹介だ

けで半分かかっちゃったということもありました。

あと、報告は各グループより約５分を考えています。１回締めさせていただいて、まとめるほどの能力はありませんので、感想ぐらいのことを僕のほうからお話しさせていただければと思っています。

あと、科学の祭典についての呼びかけを石田委員から１０分ぐらい、もしよろしかったら。

そんなことで、４時までかけなくて終わらせたいなと思っております。

なお、先ほど言いましたように、１１月につきましては少し深く入った研究討議みたいな形でやっていきたいと思っております。これは前回の確認事項に入るのではないかと思っていますけれども、何かよろしいですか。後でまたご発言ください。

当日の出席者、２枚目になりますか、網かけの部分があります。社会教育委員、図書館、公民館の方々の出席とグループ分けをこちらのほうでやらせていただきました。大体男女比がうまくいっているような感じもありますね。正副議長を各グループに分けました。男女を考慮しました。

小堀生涯学習係長　網かけは女性です。

原嶋議長　　あとは三者の正副議長を。はい、わかりました。了解いたしました。原嶋ということですね。柴田さんが副議長さんで入って、藤森さんという方が職務代理、立川さんというのが委員長ですか。４つに分かれて、後ほど話し合いの報告をどなたかがしていただく格好になっています。このことのご質問ありますか。

石田委員　　各グループの司会ではないんですが、まとめ役は社会教育委員の会議の人間がするんでしょうか。それともそのグループの中から選び出すんでしょうか。

原嶋議長　　グループの中でどうですかね。

石田委員　　選び出したほうがいいんですか。

原嶋議長　　ええ。社会教育委員の方が手を挙げられても構いませんけれども、遠慮なく。ほかにありますか。

なければ、もとに戻りまして、この日は私どもは早目に来る必要はありますでしょうか。これは２時ですので、机、椅子、会場設定については特にないですか。

小堀生涯学習係長　事務局のほうでこちらの会議室を最初からグループ分けをした形で、机、椅子を配置させていただきますので、皆さん、その時間に来ていただいたらいいと思います。

原嶋議長　　よろしいですか。

小堀生涯学習係長　はい。何か特別用意するものとかありますか。よくある付せんとかで何かしたりとかはないですか。普通に議論するための書記の方が書く紙ぐらいでよろしいですか。

北村委員　　あと、名札があるといいですね。

小堀生涯学習係長　そうですね。名札は三者でそれぞれ用意します。ありがとうございます。

原嶋議長　　懇談という趣旨がここで生かされればいいかなと思っております。じゃ、１週間後になりますけれども、（１)についてはよろしくお願いしたいと思います。

次に、（２）（３）ということでいきます。（２）と（３）は連続性、関係性からということを考えてみたらどうか。もう箱ものはいいというか、小金井市にそれが反映してくるのかというと、ちょっときつい状況なのかなと、現状として。むしろ視察を通して我々が勉強会、研修会で利用していったらよいのではないかということで、（２）と（３）の関連性を持たせたいと考えました。

こういった社会活動の記録、こういうのをお渡しされていると思いますけれども、言ってみれば、私どもは教育委員会からの付託を受けて何か審議するということは、先ほど課長さんに伺ったら、ここのところないんじゃないかということです。これを見ますと、各社会教育委員さんがそれぞれ自主的に課題をつくって、それぞれ２年間なら２年やっていくという方向がすごくわかるんです。それぞれがテーマを決めて、勉強会をし合っているということがあります。

たまたま私ども、以前は２年間こういったような推進計画をつくるということで付託を受けたわけですけれども、今回はそれがないので、せっかくですから、１年半私どもの任期で何かできないのかということを考えての提案をさせていただいて、ほぼ合意に至りつつあります。きょういらっしゃる方もほとんど学校教育に関係される方が多いということで、そういった方々からも入りやすいということで学校との関係です。

まずはテーマ決めをして、それにふさわしい視察先に行ったらよいのかということで、こんなふうな提案をさせていただきました。議事録をお読みになっ

たので、流れは大体おわかりだと思います。

地域や学校にどのようにかかわったらよいか、学校は地域に何を求めているのかということを考えてみると、その中で社会教育委員の役割はということで、最初の提案は「小金井らしいコミュニティースクールへの提言」と書いたんですけれども、提言というと、ちょっときついのかなという表現ですね。あり方というぐらいでおさめていただけないかなというご意見がありました。

自分も後で考えたんですけれども、コミュニティ・スクールって、後で古家先生にもおしゃべりしていただきたいんですけれども、実は僕も教育委員会の目標とか、教育の施策とか小金井市を見たら、いきなりコミュニティ・スクールと入れていいのかなとすごく悩んでしまったんです。このままいくと、学校教育にかなり傾斜しているような感じになってしまうのかな。僕らはその仲で何が学校にかかわれるか、その役割ができるのかということなので、後でこれはご議論いただきたいんですけれども、たたき台として「地域の教育力を活用した学校教育への支援のあり方について」、少しやわらかいランディングのさせ方をしたらどうかということでご審議いただきたいと思います。

たしか古家先生、目標とか、施策とかなんか、僕も見たんですけれども、コミュニティ・スクールはそこまで書いていないと思うんです。

古家委員　　全くないです。

原嶋議長　　全くないですよね。ですから、言ってみれば、やや乖離ができてしまうのかなですね。ちょっとその辺が心配なものですから、こういう提言をさせていただきたいです。『小金井らしい教育』という箇所を読んでみたら、ここで言っていいのかどうか、極めて伝統的な言い回しなんです。校長先生を中心とした学校運営をしていくということなので、ちょっとコミュニティ・スクールとは違うんですけれども、将来的にはぜひとも、あるいは現状でも地域の方々がいろいろかかわってくれるので、社会教育としてはその中でどう交通整理したらいいのかなというのを考えたときに、このようなテーマをつくってみました。

具体的にこれらを受けて、例えば三鷹では小中一貫を既に話題に出していますし、小平の小学校、これはヤマダさんのほうでかなりコミットされているので、こういったように訪問先ですね、これは指導室や委員のコネクションで、去年もそうだったんですけれども、こういったようなことで、僕たちが進む勉強としてこういうのをやったらいいのかなということでまとまってきています。

ただし、仮称を皆さんからいろいろアドバイスされ、僕自身ももう１回勉強し直したら、コミュニティ・スクールっていきなりつくると、ちょっときついのかなという感想を持ったものですから、変更させていただいたわけです。

下に、小金井市の教育目標、生涯学習関係も抜粋させていただきました。教育施策もそうなんですけれども、次の教育方針等々を読んだんですけれども、ここに書いてあるようにコミュニティ・スクールというのはほとんど入っていませんので、一応こういう仮称をつくってみました。文言が何か不適切であれば、皆さんのご意見を中心に、進めたいと思います。

柴田先生、どうですか。まず、仮称のところでどうですか。

柴田副議長　　あり方でいいと思います。でも、全体の動きは、今度の中教審でもなるべく公立の小学校全校をコミュニティ・スクールにしたいという方向の提言がなされて、１２月にそれが正式に出るという話を聞いたんですけれども、それは最終的には努力義務という位置づけで、絶対にそうしなければならないというものではないと判断しています。

小金井の学校教育はとてもまとまりのある学校経営で、東京都の教育委員さんからも評判がいいと伺っています。先生も子供たちも安定していると聞いています。親もＰＴＡもかなりコミットして、学校運営協議会ではなくて、実践型のコミュニティ・スクール運営をしているように私は感じているんですけれども、そういったところで小金井らしさを生かした学校教育への支援を社会教育委員として研修をして、そのあり方を示す程度でいいんじゃないのかなと考えます。

原嶋議長　　ありがとうございました。

古家先生、小平でしたっけ、いろいろ回れて、府中もいらっしゃった。そして今は小金井ということで。

古家委員　　じゃ、一言。学校教育を取り巻く環境という部分で、コミュニティ・スクールみたいなものとか、小中一貫校みたいなものが出てき始めたのが１５年ぐらい前なんです。１５年ぐらい前から、今の学校教育をさらに充実させていくというニュアンスと、地域の教育の拠点的な存在にしていくみたいなものを含めて、今までの学校のあり方を取り入れるというイメージよりも、大きくさま変わりさせるという部分で出てきたのが、実はこの２つなんです。

コミュニティ・スクールが一番早かったケースは、１５年ぐらい前に取り組んでいますし、小中一貫校も１０年以上前に取り組んでいるんですけれども、小金井市の中で今現在、小中一貫校もコミュニティ・スクールも一つもないということは、おそらく１０年、１５年前の段階で、小金井市は長い目で見て、小中一貫校もコミュニティ・スクールもとりあえずは取り組まないという大まかな方針がきっとあったんだろうと思うんです、当時の教育長を中心に。

そういう中でお隣の小平はかなり早く、一番早いのが１５年ぐらい前に小平第六小学校がコミュニティ・スクールでスタートしました。見学に行くのは小平六小が一番いいだろうと私は思います。相当歴史は長いですし。

それからもう一つは、小中一貫校というのは、例えば小金井もやっていませんし、国分寺もやってないし、国立もやってないし、この近辺でやっているのは三鷹と八王子ですか。八王子は幾つもやっています。小中一貫校をやっているのは、どちらかというとかなり僻地に近いような、八王子でいうと加住とか、ちょっと離れたところで、児童生徒数が非常に少なくなってきているので、せっかくならば小中学校を一緒にしてみたいな形で八王子は取り組みました、最初は。

そして、新しい地域につくるときに、意図的に近くにつくってやったことがあるんですけれども、小中一貫校は、どっちかというと校長を１人にしてという、ちょっと行政改革的な意味合いも持っているので、そういう部分が直接今の小金井に必要かどうかということになってくると、これはまだ置いといたほうがいいだろうなと。

コミュニティ・スクールに関しては、それに近い同じベクトルの一番手前のあたりというのが、議長が書かれている「地域の教育力を活用した学校教育への支援」という部分が、同じベクトルの一番根元の部分なんです。それをさらにシステム化していったものが実はコミュニティ・スクールという形なので、そういう意味ではあえてコミュニティ・スクールという言葉は使わないけれども、学校が地域の教育力の拠点になるという意味と同時に、学校教育に対するいろんな支援の流れをつくっていくという意味では、コミュニティ・スクールは使わないけれども、地域の教育力を活用した学校教育への支援のあり方というのは非常にいいテーマではないかと私は思っています。

特に今、小金井市は教育長の考え方も含めて市全体が、せっかく東京学芸大学という本当にすばらしい研究機関があるので、東京学芸大学との連携というのは小金井市は絶対に地の利としてやっていくべきだろうと思うし、それ以外にも地域の皆さん方のレベルの高さというか、非常にさまざまな技術というか、知識というか、いろんなものをお持ちの方がたくさんいらっしゃる地域ですので、そういった部分で地域の人材を活用するという方法は、ある意味非常に必要なことではないかと私は思っています。

原嶋議長　　かなり高度な研修会となってきまして。

古家委員　　いや、済みません、余計な話で。

原嶋議長　　これがいいんじゃないですか。でも、このことそのものが進んできて、僕らの勉強会みたいになっていくわけですので。

原田委員　　お恥ずかしいんですが、前回まで私はコミュニティ・スクールというのは全然知らなくてというか、誤解していたというか、何か学校に問題があるので、地域で提言をして正さなきゃいけないとか、あるいはコミュニティ・スクールってあちこちでやっているのに、小金井が全然ないのは取り組みがおくれているのではないかとか、そういう意識を持っていたんです。でも、前回の議論を伺い、今の先生のお話を伺って、そうじゃないということがよくわかりました。ですから、議論の方向も見えてきたと思います。

教育って家庭があって、学校があって、地域があって、その３つがうまく回っていかなきゃいけないと思うんですが、そういう意味では地域が学校教育に支援をすることも大事なんですけれども、逆にそれによって地域の力を見直すというか、学校を支援することによって地域が気がつくということもあるかと思う。家庭の力も同じように見つかることがあるんじゃないかと思いますので、そういう広い視点で議論ができたらいいと思いました。

以上です。

原嶋議長　　ありがとうございます。

北村委員さん、このことでご発言お願いできますか。

北村委員　　今の古家先生の話で、小中一貫校にしたきっかけがわかりました。

古家委員　　本当にぶっちゃけた話、東京都の教育委員会のトップがどう考えているかわからないんですけれども、行財政改革の中で、例えば児童数が五、六十人しかいないところに校長が１人いる、児童数が８００人いるところに校長が１人いる。児童数が１００人ぐらいだったら、隣の学校と一緒にして、校舎は別々だけれども、校長１人で、副校長がそれぞれという感じでやったら、校長１人分のという部分が多分にあって、小中一貫校になった部分も実はあるんです。表に出てきませんけど。

と同時に、小学校１年生から中学校３年生までを一緒に先生たちが見ていく。実際には中学校の先生は中学校の子供を見、小学校の先生は小学校を見るんですけれども、小学校の先生も中３を意識しながら、中学校の先生も小１、小２を意識しながらやっていくと、９年間を見通した系統的な指導ができるメリットがあるという部分が、実は行政トップ側には判断があったんです。

だから、ある意味では小金井みたいなところはうまくいく可能性はあるんで

すけれども、逆に現場の声としては、小学校１年生、２年生の担任を主にやっている先生が中３の授業を教えることができるかという部分があるし、これは非常に悪い例なんですけれども、中学校がすごい荒れていると。すごい荒れている状況を小学校の低学年生が目の当たりにしょっちゅう見ているというのは、むしろ小学校の子供たちにとってはマイナス要因のほうが強いという反省事項もすごくあって、小中一貫の取り組みも途中で、とりあえず今できているところまでしかできてないという部分もあるんです。

コミュニティ・スクールのほうも実は、本当だったら、もっと進んでいくのかなというニュアンスもあったんですけれども、コミュニティ・スクールと普通の地域人材を活用した学校教育の大きな違いというのは、学校運営協議会という学校の運営に、今、小平市のどこの学校にも学校運営連絡会ってあるんです。あるんですけれども、これは一応校長が経営方針を示して、年に３回ぐらい会を持ってちょっと説明して、学校を評価していただいて、いろいろ意見を聞く情報交換ぐらいなんですけれども、コミュニティ・スクールになると、実は正式に学校運営協議会の委員という形で任命されて、そのお一人お一人が学校運営に責任を持つみたいな、もっと言うと、これが私立の学校だったら、人事とか予算にも口出しができるぐらいの権限を目指したいというのが、実は文科省の中にあったんです。

だけど、公立学校ではそれは無理なので、だけど学校運営や、いろんなものに責任を持ってかかわっていこうという方を任命しなきゃいけないので、今の各学校でやっている学校運営連絡会とはかなりレベルが違うんです。

会も本当に頻繁に、月に１ぐらいでやらなければいけないし、運営協議会の委員になられる方も学校運営、組織、教育内容とかいろんなこと、相当きめ細かいことを知った上で、なおかつ学校の立場も、地域の立場もいろんなことも知りながらやっていかなければいけないので、相当意識が高くて、なおかつ時間をかけてかかわってくれる人、それから地域人材の活用も学校の副校長や主幹じゃなくて、私がコーディネーターをやりますよみたいな方が３人も４人も５人もいて、初めてそれができるという土壌がないとできないんです。

だから、小平第六小のさっきの例というのは、１５年ぐらい前にそういう地域連携に非常に興味のある校長先生がいらっしゃって、しかも８年間校長をやって、その校長を退職した後も地域に住んでいらっしゃったので、それも一緒にかかわりながら、そしてあそこはブリジストンという大きな会社の社宅があって、本社がありますから、そこと地域の商店街とかも全部ひっくるめて、地域で学校をつくっていこうみたいな特殊な形としてつくったんです。

実は学校そのものも小金井の普通の学校と、行ったらすぐわかると思うんですけれども、えっ、これは学校なのというぐらいに施設はものすごく充実して

いますし、学校の中の図書室、家庭科室、コンピュータールーム、体育館からすごい設備ですから、地域の方も利用されている。だから、学校の中に外部の方が入ってくる割合も半端じゃない数なんです。そのかわり副校長をはじめ、それに対応できるだけの教員も配置してあるという特殊な状況になっていく。

そういうのが一つのコミュニティ･スクールの典型的な例なんですけれども、これを全部の学校に広げるというのはとても無理なので、それぞれの市区町村に何校かあって、あとは可能な範囲でというのが現状ということなんです。済みません、余計なことばっかりで。

原嶋議長　いいえ。私も杉並区に長くいたんですけれども、やっぱりそのとおりで、その持つ地域性とか校長先生のリーダーシップ、あるいは周りの人事に対するバックアップとか、いろいろ考えていくと、例えばうちの中学校の場合、２３校、やっぱりわかるんですね、区役所のほうが。どこがそういったいい地域性とか、リーダーシップとか、その辺に力を入れて、あとはついてきてくれみたいな。アドバルーンは上げたけれども、求めるコミュニティ・スクール像というのがあるけれども、まずここから始まっているということをどんどん進めていくというところがあるのかなと。そういった意味では小平六小はいいアドバイスなのかと思っております。

三鷹もコミュニティはやっていらっしゃるんですね。モモセさんだったかな。

柴田副議長　三鷹は学園制で、小中一貫校ですね。そこは中１プロブレムという、中学生になると急に授業のスタイルも、先生方のやり方も変わって、小学校６年生までは元気に学校の授業に参加していた子供も、中１になってテストも多くなったりという環境の中で落ちこぼれ的な生徒が増えてくることを解消するために、小６から中１にうまくつなげるところが問題視されていて、それを解消するための一方策として学園制の小中一貫校というものが取り入れられたという背景があって、先生方の研究授業もお互いに見学し合ったりとか、あとキャリア教育というところに力を入れてやって、そういったキャリア教育、職業観とか勤労観を子供たちに養うというところで、小中の先生方や児童や生徒が交流しながら進めていくというところです。

三鷹は第四小学校が先駆的な事例で、もともと１５年ぐらい前に校長先生がかわりまして、その先生が、今かなり活躍していますね、中央のほうで。

それと、コミュニティ・スクールですが、先ほど古家先生がおっしゃったように、委員は一定の権限と責任を持つというふうに定められていますけれども、教員の人事権を直接都の教育委員会に具申できるという強い権限を持っていますが、それをあえて行使しないということを決めて、コミュニティ・スクール

にしている学校も全国には結構あります。

古家委員　　この人事権の問題は非常に難しいんですね。私立ですと、校長が人事権を持って、そういう人を雇用するという形もとれるんですけれども、公立の学校の場合には当然ながら、東京都の場合には小金井市の職員じゃなくて、東京都の職員なので、こういう人が欲しいというのはいっぱいあるんですけれども、実際にそういう人が回されるケースって非常にまれなんです。

なので、コミュニティ・スクールの指定を受けると、コミュニティ・スクール用の公募という形で、１名か２名は特別枠で、特別枠って数が増えるんじゃなくて、特別にコミュニティ・スクールを希望するという公募で、主幹レベルの先生を希望して採るということは可能なんですけれども、それはほんの一部の例であって、人事権の部分には校長でさえほとんど希望どおりにはならない。だから、ましてや学校運営協議会の方々は、思っていても実際には実現しないし、あまり学校の人事に口出しをすると、今度は校長の経営が難しくなるので、それは一応触れないという方向でいっているんだと思うんです。

原嶋議長　　ありがとうございました。

長坂先生、どうですか。

長坂委員　　前回欠席しましたから、発言は控えますけれども、ただ、議事録を見ましたら、コミュニティ・スクールのところでいろいろ議論が分かれたというか、認識不足というか、いろんなことがあったものですから、先ほど配られた、こんないい資料があるとわからないから、一応私どもが昭和５４年に書いている、行政から出しています生涯教育事典にそこら辺がきちっと書いてあるので、いろいろ見まして、もしよければこれをコピーしてもいいなと思って、ただ持参しただけです。そのは必要ないと思いますけれども、もし必要があればということで、今いろいろお話を伺って感心しているところです。

原嶋議長　　小金井の実態を把握しながら、私はたたき台をつくってみたので、古家先生が言ったように、原点からの出発の言葉なのかなということは本当に。これは言ってみれば、社会教育委員の我々の発想の原点なのかなというところで出発しているところです。

北村委員　　会長をやっていたときに、学校運営連絡会に１年間出ていたんですけれども、そのときに言われたのが地域の人も学校にいっぱい協力したいんだけれども、学校の人も地域に協力してほしいんだよって。学校の行事と地域のお祭りの日

が重なるらしくて、おみこしをかつぐ子供がいないって。そういうのもやってくれると、お互い連携がとれるのにと言っていたのを思い出しました。

友達で、渋谷の公立の学校に通っている子がいるんですけれども、クラスのお母さんたちの一番最初の保護者会のときに、みんな役員につくらしいんです。幼稚園のときにそれぞれのお母さんたちが学芸会の係とか餅つきの係とかやるみたいに、中学生なのにそういう役割が決まるらしくて、地域のごみ拾いとか、地域の祭りとか、みんながそういう当番につくらしいんです。

なので、学校にかかわっている全ての保護者が地域にもお手伝いに行って、地域の方も入学式とか卒業式に何とか町内会会長みたいな人がいっぱい来るって言っていました。やっぱり片方だけじゃだめなのかなという感じはしました。

原嶋議長　勉強していく中でそういう話もまた出てくるのかもしれません。　かなり強引な仮称のつくり方で、これをつくって、また引っ張るつもりはないんですけれども、訂正していただければよろしいんですけれども、よろしいですか。

（「はい」の声あり）

原嶋議長　ありがとうございます。

ちょっと裏のページをごらんください。今後の方向性なんですけれども、最後のところですけれども、これは学校さんが中心になると思いますので、ご都合のよい、先ほど出ました小平六小とか三鷹四小もターゲットになると思います。それを実際に見学しながら、また勉強し合ってという、あるいはそういった裏づけを少し勉強しながら教育委員会とも話ししていいのかなというのもありますし、この中で講師を呼びなさいということであれば、全国的に生重さんでしたっけ、彼女なんかにちょっと。

柴田委員　ＮＰＯの。

原嶋議長　中教審かんなかに出ている？

柴田委員　はい。

原嶋議長　そんな人をお呼びしてお話ししていただく。コーディネーターというのは、古家先生に資料を用意していただいて、かなり重要な役割をする。そういった方もお呼びしながら、僕らが勉強していくということで考えています。

ただ、研究発表ということだと、文字表現をどんどんしていかないと、非常

に拘束力ができてしまうのではないか。ですから、自由な意見をしながら我々のステップアップ、肥やしにしていったらどうなのか。ただ、これは１年半もありますので、文字化は必要があれば柔軟に対応していったらどうか。今のところ文字化する、つまり研究発表的に何かやるのではなくて、あまり最初から走ると疲れちゃうなという感じもしますので。

ただ、最低限は次期の方々にはこういうテーマがあって、何回ぐらいこういう討議をしたとか、どういうところへ行ったとかというのは、言ってみれば報告ぐらいはできるのかなと思いました。

なので、私がコミュニティ・スクールの下のほうの地域教育ネットワーク。資料５、これは周南市という山口県にあるところですけれども、こういうふうに自分たちが勉強したことを一生懸命立派に書いているんですけれども、ここまでのハードルをまず課す必要はあるんだろうか。ここまでやると、だれが文章を書くとかいう、そこまでいくと人間関係があまりよくならないと思いまして、これはこれで一つの参考に。

例えば案外とポイント、コミュニティ・スクールの意義とか、これからお勉強する方、当然先ほどさせていただいた地域教育コーディネーターの役割、結構コーディネーター、コーディネーターとかなり重要なポイントが出てくるのかもしれませんでしたので、事務局の方に印刷していただきました。後ほどお読みいただければと。　ですから、このレベルのことをやっていこうなんていうのは私自身は思っておりません。

原田委員　　質問ですけれども、このコーディネーターというのは先ほどお話された運営協議会の委員のことですか。

石原生涯学習課長　必ずしもダブらないんですけれども、かなりダブると思っていただければいいです。

原田委員　　ああ、そうですか。

原嶋議長　　せっかくですから、古家先生、用意していただいた……。

古家委員　　私はいろいろ個別に調べたりもいいなと思ったんですけれども、私の経験からいくと、地方だと１つの市で中学校が２つ、３つで、小学校がみたいなところは、土地が広いとかっていろいろあるんですけれども、東京とか大阪みたいな､大都市部と地方ってちょっと違う部分があるだろうなというのもあるので、特に１つの市の中に人口が多くて学校数が多いので、ちょっと違う部分が多い

かなと思って、個別のことよりも。個別のことは私も、例えば小平六小なり、具体的に取材したら、いろいろわかるだろし、私の知り合いでいたので、ちょっと取材はしたんですけれども、一番初歩的な部分として、文部科学省が出しているコミュニティ・スクールの一番基本的な知識としては、多分これが一番わかりやすくて、目指す目標みたいなものと現実のシステムみたいなものがまとめてあるのがこれかなと思って送らせていただいて、印刷していただいています。「コミュニティ・スクールって何？！」という１２ページ立てぐらいものでしょうかね。後でごらんになっていただくと、わかりやすいとは思うんですけれども、実際ここまではなかなかできないから難しいという部分なんでしょうか。

原嶋議長　　ありがとうございました。あとは事務局の方、こうやって印刷をそろえていただいて助かります。せっかくお出しになったので、みんなでこれ読み上げませんか。個人個人でまた学習していただければと思っています。ありがとうございました。

それでは、この件につきましては、こういったテーマのもとに、先ほど言いましたように、三鷹さんなり小平さんに、学校をみんなで視察する日時の設定等については、ここでは具体的に言えませんので、調整その他、学校さんが中心ですので、それは少しお任せいただければと思っています。どうもありがとうございました。

（２）（３）については終わらせてください。どうもご協力助かりました。ありがとうございます。

それでは、次にまいりたいと思います。（４）社会教育関係の団体への補助金ですか。どうぞお願いします。

小堀生涯学習係長　では、資料６、Ａ４、１枚の表がありますので、そちらをごらんいただきながら、前回の会議とちょっと説明が重なるところがあるんですけれども、改めてさせていただきます。

前回の会議で配った内容を抜粋してお伝えして、小金井市社会教育関係団体補助金交付要綱というものがございまして、この補助金につきましては、第２条で、小金井市社会教育団体として登録してから１年以上の実績を持つ団体が対象となりまして、第３条で、社会教育を主たる目的とし、かつ一般市民を対象にした事業について、１団体につき年間１事業５回までの補助を限度とするとなっております。第５条のほうで、予算の範囲内において、補助対象経費の２分の１を限度として交付するとなっておりまして、次、第８条で、申請がありましたら、内容が適正であることを調査し、ここからが社会教育委員の会議

ですけれども、社会教育委員の会議の意見を聞いた上で交付を決定するものとするということで、第８条に記載がされております。

そちらを受けまして、今回、資料６として提出させていただいているんですけれども、４月１日から２８日までの間に申請がありました団体は５団体ございまして、団体名と事業名、予算等がこちらに書かれております。皆さん交付申請があった額が各３万円で、５団体ありますので、全体としては１５万円ということになるんですけれども、一番上の団体だけは今回初めて申請があった団体で、次の団体からは１回以上の交付をしている団体となります。財政等の関係もありまして、今回、１２万円の予算ですが、申請額が１５万円になってしまいましたので、申請額としては予算額を上回っております。

こちらにつきましては、前回お伝えしたこととまた重なってしまうんですけれども、社会教育関係団体補助金見直しについての提言というのをいただいておりまして、その中で、５、その他の条件（４）全体の申請額がその年度の補助予算額を超えた場合は抽選とするという記載がございまして、今回、５団体のほうで申請額が上回っておりますので、こちらでご意見を聞いた後、厳正なる抽選を行う予定でおります。

あと、その下に、ＰＴＡ連合会、スカウト協議会さんからも申請がございます。

以上です。

原嶋議長　　特に上の４つにしたいわけですね、予算の関係で。３×４、１２万円しかないと。社教委の意見を聞いた上で進めたいということです。ご意見ありますか。ご質問でも結構です。

石田委員　　１２万円の予算というのは、暫定予算が２カ月しかつかないから１２万円。

石原生涯学習課長　いえ、違います。当初予算で１２万円で、今、暫定予算になってないるので、今はゼロです。もし予算がついたとしても、１２万円までしかつきません。

石田委員　　昨年、小金井写友会に対しては、個人の趣味の集まりではないのでしょうかという意見が出た覚えがあるんです。ですから、市民はどのくらい加入しているのかという疑問が出た覚えがあるんですが、そういうことは考慮しなくて抽選と。

石原生涯学習課長　これ、どれを取り上げるかというところは、中身を精査していても難しくて、例えばほかの団体さんにしてもその３万円何に使うのというと、小金井市

が設置している宮地楽器ホールの使用料に入るとかいう団体もあったり、いい試みをやっているんだけれども、市の関係の施設費に流れていくという内容が含まれていたり、あと財政的にも結構大きな予算を持っているんじゃないかという団体もあったりして、どれを点数化して優先度をつけるかというところは難しいところもあって、現状は過去の社会教育委員さんの提言の中で抽選にするのが適当じゃないかというご意見をいただいたところです。

石田委員　　わかりました。

原嶋議長　　あっちをほじくると、こっちのほうから出てくるのが、我々情報としてこれ以上ない訳ですから。

石田委員　　ただ、申請に対して、申請用紙を使用した結果報告書はまたきちっとあれするんですよね。

石原生涯学習課長　はい。

原嶋議長　　ご質問、ご意見ありますか。係長さんがおっしゃったように、最終的には厳正な抽選としていきたいということでよろしいですか。

（「はい」の声あり）

原嶋議長　　その抽選は、僕らは立ち会う必要はないと思いますし。

石原生涯学習課長　一応団体さんにはお越しになれますよというお声がけをした上で、お越しになれなかったら事務局が代理で抽選を引くかと。

原嶋議長　　公開抽選的になるのは、方向として出しているわけですね。

石原生涯学習課長　はい。

原嶋議長　　この方向でよろしいですか。

（「はい」の声あり）

原嶋議長　　どうもありがとうございました。それでは、次に進めさせてください。

その他ですか。どうぞ。

小堀生涯学習係長　議事録についてなんですけれども、本日、日程等の関係がありまして、議事録は前回の分がついてないんですけれども、校正をお願いしたときに複数の方からお話があり、前年度の議事録はいわゆる「ですます調」というか、話し言葉のような文体だったんですけれども、今年度１回目、ほかの会議等を見て、かたい口調のものも多かったので、一旦それでつくってみたんですけれども、やっぱりちょっと高圧的な物言いのものに見えるとか、いろんなご意見をいただきまして、会議録の作成業者さんとも確認をして、「ですます調」でつくることに特に問題ないというお話をいただきました。そのため、前年度と同じ形のものにかえさせていただいて、再度、申しわけないんですけれども、校正のお願いをさせていただくということで考えているんですけれども、簡単にご意見等があれば伺いたいと思いました。いかがでしょうか。

原嶋議長　方向性としてどうですか。「ですます調」のほうでよろしいですか。

（「はい」の声あり）

原嶋議長　それでいきたいということでお願いします。また、訂正等くるかと思います。ご協力ください。

その次いきましょう。その他ありますか。なければ報告に入ります。

図書館協議会委員の変更について。図書館長さんですか、お願いいたします。

菊池図書館長　それでは、小金井市図書館協議会委員の委嘱についてご報告させていただきます。

図書館協議会委員の第１号委員であります校長先生なんですけれども、神成委員が３月３１日で学校を退職されましたので、その補欠委員の委嘱でございます。補欠委員は、小金井市図書館協議会選出要綱に基づきまして、小金井市立小中学校校長会にご推薦いただきました。４月２１日開催しました選考会議にお諮りしまして、５月１０日の教育委員会で決定しております。

新しい委員は、東中学校の大友　敬三委員でございます。任期は、平成２８年４月１日から２９年１０月３１日で委嘱するものでございます。直近の５月１２日に図書館協議会がございましたが、オオトモ委員さんはご欠席でございましたので、委嘱状は送付させていただく予定でございます。

ご報告は以上です。

原嶋議長　　よろしいですね、これは。報告したということです。
それでは、小金井チャレンジデー２０１６。

石原生涯学習課長　こちらは前回、チラシなどを配らせていただいたと思います。５月２５日の水曜日がチャレンジデーの本番でございまして、昨年に比べて事前の登録が半分程度しか来てなくて、２５日の天気もいいか悪いかというところで、非常に苦戦しているところでございますので、もし関係団体などで、２５日これだけは活動できるという団体さんがございましたら、事前登録のご協力をいただければ幸いでございます。
以上です。

古家委員　　質問でいいですか。これって登録した人の数がほぼイコールだと思うんですけれども、登録した人の数があれになるという感じなんですか。

石原生涯学習課長　そうです。登録した人と人口の比率の上下で。

古家委員　　そういうことなんですか。

原嶋議長　　私はこれにかなり携わっているんですけれども、古家先生みたいな認識の方が多いということは、我々の活動がまだまだ低いということなんです。これはしきりに僕もお話しさせていただいているんですけれども、まだまだですね。

古家委員　　私たち学校の人間って、その日にちょっとした運動を入れて全員参加ということで、組織体として報告する習慣がついているので、市民という意識で見てないものですから。ああ、そういうことなんですね。

原嶋議長　　学芸大さんも事前登録いただいて、ソロプチミストさん、あとＰＴＡの方ですか。

石田委員　　ただ、登録しているかどうかはまだ確認してないんですが。

原嶋議長　　長坂さんの雑学でもよろしかったら。

長坂委員　　Ｐ連の総会でもやらさせていただいて。

石田委員　　当日、例会なので、登録はできます。

原嶋議長　　北村さんの力強いパワフルな。

古家委員　　小さな組織でもいいから、組織が組織として登録すれば、大分違うということなんですよね。そういう意味ですよね。

原嶋議長　　僕なんかは家族４人なんですけれども、みんな運動して、通勤するから、もう入れちゃいましたね。４票ですけど。

古家委員　　なるほどですね。済みません、変な話を言って。

原嶋議長　　いいえ、そんなことないですよ。まだまだ広報活動が不足で反省し合っている。ご協力ください。図書館なんかはたくさん対応できるんじゃないかな。
　それでは、次いきましょう。その他、報告ありますか。よろしいですか。

石原生涯学習課長　大丈夫です。

原嶋議長　　何かありますか。

小堀生涯学習係長　大丈夫です。

原嶋議長　　皆さん、どうでしょうか。

生涯学習課長　　じゃ、ちょっとお聞きしてもいいですか。先ほどちょっと学校運営協議会のお話が出て、学校運営協議会は昨年度から、教育委員はなるべく学校運営協議会が開催されるのを見に行こうという活動をしているんですけれども、社会教育委員さんとかは見に行けるんでしょうか。

北村委員　　あれは傍聴、大丈夫ですよね。

古家委員　　はい。学校に直接連絡して依頼すれば、大丈夫だと思います。

古家委員　　ほかの市を見る前に小金井市の部分なんかも。

原田委員　　傍聴できるんだったら、ぜひ。

古家委員　　私なんかはいつも校長室でやっているので、椅子の問題でちょっとどうかなという気はするんですけれども、別に構わないですけど。まずいことを話しているわけでもないですし。

原嶋議長　　基本的に傍聴オーケーなんですね。事前にやっぱり連絡するということで、社教の委員の方は。

北村委員　　たしか市報には載りますよね。どこどこ学校何何って。

古家委員　　一度に１０人ぐらい来られると、ちょっとスペース的に難しいかもしれない。大抵の場合には、校長室または校長室に近い小会議室みたいなところでやっているので、大体普通、委員さんは校長、副校長を含めて８名から９名ぐらいだと思うので、どなたかお１人かお２人ぐらいにしたほうがやりやすいかもしれないです。変な話ですけれども、一度にどどっと五、六人来られると、監視しに来たのかなみたいなにどうしても思っちゃいますね。だから、そういうニュアンスにしないためにも、ソフトランディングのほうがいいかなという気はします。

ちなみに、先ほどちょっと北村さんのほうからお話があったように、いろんなことというのは公立学校も全部同じようにやっているかといったら、全くそんなことはなくて、学校行事の組み方とか、いろんな連携の仕方も、ほとんど学校独自というか、学校ごとにカラーは相当違います。だから、それはそういうニュアンスで見に行かれたほうがいいと思います。ここの学校へ行ってこうだったから、ほかの学校も全部同じなのかなといったら、全部違うと思います。そこの学校の今までのやり方とか、今の雰囲気というのはすごくあるだろうと思います。

原嶋議長　　日にちは広報に出ているんでしたっけ。それは関係ないんでしたっけ。あれは公開日でしたっけ。

古家委員　　いや、少なくともうちは公開日じゃないです。

石原生涯学習課長　以前出ていたのを見た覚えはあるんですが、継続して出しているのかなと思った。

原嶋議長　　済みませんが、それは確認をとって。

石原生涯学習課長　はい。

古家委員　　もし本町小学校の学校運営連絡会ということであれば、二、三名ぐらいでしたら、別に全然構わないです。いつだったか、今ちょっと調べてみますけれども、全然構わないです。

北村委員　　まずは小金井の学校を知るというのが。

石田委員　　出席可能であれば、行ってみたいなという気はしているんですね。

古家委員　　同じ委員だったら、そのほうが気楽かもしれないですね。

石田委員　　ただ、多摩科学技術高校ができる際に、学校運営連絡協議会みたいなものが設立のためにつくられていて、そこにソロプチミストの委員が行っていたんですが、その折、多摩科学技術高校は古い校舎のまま新しい学校に移行するという意見があって、とんでもないと。新しい学校にするんなら、校舎も新しくしてくださいという意見を言ったんです、ソロプチミストの委員が。そして、それが結構大きいあれをして、現在の新しい校舎になっているんです。

そして行ったら、古い校舎の時代よりも、３年目から入学希望者がぼーんと増えて、先日も多摩科学技術高校にちょっと行ってきたんですが、３年、４年ぐらいで増えて、ちょっと落ちたけれども、また上がっているということで、校舎の新しさとか、そういうのは生徒数の応募数にまで比例してきたという結果が出ているので、委員が学校の特色を知るとか、そういうことはとてもいいことだと思うんです。

それと同時に、先日、ちょっと狛江市の生涯学習教育の方と科学の祭典について話したんですが、小金井市はいいですよ、学芸大があるということで、赤ちゃんの乳母車を押して学芸大に行っているお母さん方がいる。ということは、大学がすごく身近なんだと。狛江市には大学がないから、大学という一つのハードルとして捉えてしまうということを聞いて、小金井市は学芸大と農工大、２つあるんです、国立大学が。私立大学は法政大学や電機大学がある。大学がとてもあるということの有利な地域性というのを改めて認識しました。

古家委員　　ものすごく大きいです。わかりました。本町小の学校運営連絡会は５月２５日の水曜日の１０時からです。

原嶋議長　　チャレンジデーですね。あえて引っかけましたね。

古家委員　　全然意識はしてないですよ。１０時から校長室でやるんですけれども、先ほども言いましたように、うち校長室に椅子が８個か９個ぐらいしかないので、もし来られるとしたら、せいぜい二、三名にしていただきたいなと。それから、先ほど石田さんのほうからお話がありましたように、科学技術高校の件はかなり特殊な例だと思うんです。意見を言ったら通るかといったら、そんなこと全然なくて。

石田委員　　通らないんですけれども、それが通った。

古家委員　　小金井市の場合でも、既に皆さん方一番御承知のように、今年度の予算すら通ってないような状況ですから、予算に関する部分とか、ちょっとそっと意見を言って通るようなことというのは、僕らも死ぬほどそれは感じていますけれども、難しいです。

逆にまた、これはちょっと変な言い方で申しわけないんですけれども、いろんなことがわからない状況の中でいきなり質問とか意見とか言われると、皆さんがお困りになるような部分もあるので、見ていただくだけにしていただいて、もしご意見とかご質問があったら、終わってから私なり副校長にというふうに、それはルールを守っていただければと思っております。

原嶋議長　　申し込みが多かった場合、厳正なる抽選ということ。そうですね。自分の足元を見ることはとても大事だと思います。

これで終わらせてもらいたいんですけれども、今後の予定をご確認ください。先ほど言いました５月２７日、よろしくお願いします。　７月２２日、これは下に括弧があります。視察研修と同日開催になった場合は変更の可能性ありということなので、これはまた、はっきりと日時は追って連絡があるかと思っております。この会議そのものは２カ月間ちょっと、きょう古家先生からすごい宿題がありましたので、終わらせていただいてよろしいですか。

（「はい」の声あり）

原嶋議長　　どうもきょうは本当にありがとうございました。